

ほんばこ



No. **37**

日本教育会館 附設 教育図書館通信

復刊第 37 号 (通巻第 53 号)

2012 年 3 月 21 日発行

〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋 2-6-2

日本教育会館 5 階

教 育 図 書 館

Tel/Fax : 03 (3230) 4437

Mail : toshokan32304437@jec.or.jp

<http://www.jec.or.jp/tosho/>

● 目 次 ●

- | | | |
|------------------------------|-------|-----|
| ・ 日本だけではない世界的に広がる「異常気象」 | 前田 武 | 2 p |
| ・ 教育図書館のご案内 | | 3 p |
| ・ 最近の受入図書 (1) 教組刊行物・平和資料など | | 4 p |
| ・ 図書紹介……永井憲一監修『憲法から大学の現在を問う』 | 中川登志男 | 4 p |
| ・ 最近の受入図書 (2) 歴史・社会・教育・文芸ほか | | 6 p |

日本だけではない世界的に広がる「異常気象」

前 田 武

2012年2月の下旬、青森県の八甲田山に樹氷を撮りに出かけましたが、雪の量の多さには驚きました。八甲田山に向かう道路の両側には例年より高い雪の壁ができており、また宿泊した谷地温泉は、八甲田山中にあるだけに建物に雪の斜面が迫るなど今にも崩れ落ちそうな状況になっていました。去年も同じ時期に八甲田に来ましたが今年は雪の量が圧倒的に多くなっています。これも異常気象が原因なのかも知れません。

2011年10月、世界最高峰のエヴェレストを目の前に見ることができるネパールのカラパタール（5500m）へ出かけました。このヒマラヤ・トレッキングは、世界の屋根と言われている地域をロッジに泊まりながら2週間程度を費やして歩くツアーです。歩く標高は2800m～5500m付近を歩くので気象条件が良くないと寒さが厳しくなり、成功する確率が減少します。そのため、天候が一番安定する10月～11月の秋のシーズンにかけて行きましたが、右上の写真のように朝から晴れたのは僅か2日だけでした。

トレッキング中も午後からは雲が湧き出し、雨は降らなかったものの寒い日が続きました。

寒い日には寝袋に湯たんぽを二つ入れ、身体にはカイロを二つ付ける夜もありました。

カラパタールへは、ネパールの首都カトマンズから20人乗りの飛行機でルクラというところへ行く、そこから約10日間ほど歩き到着するのですが、私達が出発した翌日からは飛行機が飛ぶ地域に霧が発生し、飛行機が4日間飛ぶことが出来なかったようです。ネパールの場合には国内の飛行機はすべて「有視界飛行」なので霧が発生した場合飛



<左の山が世界最高峰のエヴェレスト8846m、右の山はヌブツェ7855m>

ぶことができません。こうした状況が何日も続くと、観光立国で国が成り立っているネパールにとっては観光客の減少に繋がりがねず大きな痛手を蒙ってしまいます。2010年にネパールに出かけたときも、本来なら雨が降らないシーズンであるにも関わらず毎日のように昼からは雷を伴う強い雨が降り続いたのにはびっくりしました。

そして、私が出かけたカラパタール周辺には大きな氷河があり、その下流には多くの村民が農業を営んでいますが、地球温暖化により氷河が後退しており、氷河の下流では水の被害が発生しています。

こうした状況に危機感を抱いたネパール政府は、地球温暖化の影響をまともに受けている象徴とも言えるカラパタールで閣議を開き、世界特に先進国に対して気温の上昇に歯止めをかけるよう二酸化炭素（CO₂）の減少を求める宣言を発しています。

ヒマラヤの魅力は、大気中の空気が澄んでおり光の光線により白い峰々が朝のモルゲンロートにより赤く染まる光景があります。夕方にも西日が山肌に反射して山が赤くなる現象を多く見ることができます。そして、太陽が沈むと夜空いっぱいに埋め尽くされる満天の星空、特にヒマラヤでは、周囲に明かりがほとんどないので星が地上に降り注ぐような夜を演出してくれます。ところが、今

回合計18日間のトレッキングでこうした光景に出会うことができたのは、トレッキングが終了する2日前だけで、私たちが日本に帰国した翌日からは再び霧が発生し、多くの観光客がヒマラヤを見ないままネパールを去ったことを聞いています。一日も早く世界の天候が安定することを願っています。

(教育総研 副所長)

教育図書館について

教育図書館は1966年10月1日、(財)日本教育会館の附設図書館として設立されました。教育関係図書館を中心に、日本教職員組合結成以来の刊行物、全国教研集会報告書などのほか、国民教育文化総合研究所(略称教育総研、前身は国民教育研究所)の研究成果、教育学一般、教育実践記録などを重点的に収集、閲覧に供しています。

現在、地域の人々をはじめ、より広範な利用に供するため、地域の図書館との提携を深め大学・専門図書館などで構成する横断検索システムなどへの参画も検討しています。

教育や教育問題、教育運動などを真摯に考え、調査研究する人々のご利用をお待ちしています。

蔵書の特徴

教育図書館は教育書を中心に和書約43,000冊のほか、和雑誌・新聞・洋書、洋雑誌など2011年1月現在で、合わせて63,000冊近い図書を収蔵しています。現在、これらの図書はすべて、インターネットで検索できます。

特別コーナー

- 平和資料コーナー：
反核・平和運動、平和教育教材、平和教育実践記録、戦争体験記など

- 日教組刊行物コーナー：
新聞・雑誌、教育政策、教育課程、教科書問題、各部の図書・資料など
- 教育総研刊行物コーナー：
年報、理論講座、ブックレット、季刊「教育と文化」ほか旧民研刊行物も含む
- 日教組教研全国集会報告書・県教研のまとめ
- 都道府県・高教組史誌、同機関誌
- 文部科学省統計調査報告書・刊行物：
学校基本調査、国際比較、教育費、学習指導要領、指導書など
- 海老原治善文庫：
元東京学芸大学教授、教育総研初代所長
- 鈴木喜代春文庫：
児童文学者、元教育相談室相談員

利用案内

- * 開館時間：10：00 ～ 16：30
- * 休館日：土曜・日曜日、国民の祝日、夏期及び年末年始の休館日、臨時休館日
- * レファレンス・サービス：
当館所蔵の図書・雑誌、その他教育に関するお問い合わせに対応しています(電話、FAX、メールによる質問にも対応)。
- * コピーサービス：可
- * 交通案内：
 1. 神保町駅(メトロ半蔵門線、都営新宿線ともにA1出口より徒歩3分)
 2. 九段下駅(メトロ東西線 6番出口より徒歩6分)
 3. 竹橋駅(メトロ東西線 北の丸公園側出口より徒歩5分)
 4. 水道橋駅(JR総武線西口より徒歩12分)

最近の受入図書（1）

（2011年10月～2012年2月受入）

【日教組刊行物】

『第2回TOMO-KENエントリーシート集2010』日本教職員組合Ⅱ編 日本教職員組合

『第3回TOMO-KENエントリーシート集2011』日本教職員組合Ⅱ編 日本教職員組合

『健康権確立に向けて第49回』日本教職員組合2009.7

『健康権確立に向けて第50回』日本教職員組合2010.7

『性別で分けない名簿（男女混合名簿等）の調査2010-2011』日本教職員組合女性部 日本教職員組合

『両性の自立と平等をめざす教育推進のために2011年度』日本教職員組合女性部 アドバンテージサーバー 2011.11

『母と教職員の会全国集会報告集』日本教職員組合女性部 アドバンテージサーバー 2010.8.1～2

『母と教職員の会全国集会報告集』日本教職員組合女性部 アドバンテージサーバー 2011.8

『母と教職員の会全国集会』日本教職員組合文久堂 2011.8

『日教組全国学校事務研究集会第50次（8月8日）』日本教職員組合 日本教職員組合事務職員2009.8

『働くってどういうこと？』日本教職員組合アドバンテージサーバー 2012.1

『3.19学校給食全国集会』四者共闘 2011

【総研刊行物】

『季刊フォーラム教育と文化65号』国民教育文化総合研究所 アドバンテージサーバー 2011.10

『季刊フォーラム教育と文化66号』国民教育文化総合研究所 アドバンテージサーバー 2012.1

【平和資料】

『いのち・人権・平和の交流誌』いのちと平和を考える会 2011.10

『第五の被爆者』全国被爆二世団体連絡会議
原水爆禁止日本国民会議 2008.2

『わたしたちの平和学習』沖縄高校生平和交流実行委員会 沖縄県教育文化資料センター

『平和ブックレット2はじめよう平和教育』
山川剛著 葦書房 2000.8

『「日の丸・君が代」を強制してはならない』
澤藤藤一郎著 岩波書店 2006.12

（都教委通達違憲判決の意義）

『平和教育ガイドブック…新潟県内における韓国・朝鮮人の足跡をたどる』新潟県高等学校教職員組合平和教育研究会 文久堂 2010.12

『あなたは戦争を知っていますか』記憶を風化させないために 千葉県高等学校教職員組合・千葉県高等学校退職者教職員の会 押尾孔出版社 2001.8

『激動の夏熊本』上田穰一著 熊本の戦争遺跡研究会発行 ホープ印刷 2011.8

【教組誌・教組刊行物】

『沖縄教育25巻～28巻（6冊）』沖縄教育復刻版刊行委員会 不二出版 2011.1

『大阪市教組50年』大阪市教職員組合

『三教組事務職員30年のあゆみ』三教組事務教職員部編 三浦半島地区教職員組合2000.3

『全国教研レポート集』山梨県教職員組合編
山梨県教職員組合 2012.2

《 図 書 紹 介 》

永井憲一監修『憲法から大学の現在を問う』

（2011年12月、勁草書房）

「いま、大学は市場競争原理の下、厳しい状況に置かれて」おり、その結果として「大学人は最も大切な『学問の自由』とそれを支える『大学の自治』を实践する意欲を失っていった」。本書は、「そのような今日の大学の実態を、憲法と『学問の自由』を考える基本的な視点から批判的に検討することを企図」しており、「疲弊した大学を再

生するためには、憲法に位置づけられた戦後大学の原点に立ち返るとともに、ユネスコ勧告などの国際的な高等教育政策を参考にすることが必要」であるという観点から執筆されている（i～ii頁）。

監修は永井憲一・法政大学名誉教授であり、執筆は矢倉久泰、石川多加子、高木敏和、西島健男の各氏である。

本書は8章で構成されており、第1～2章は戦後大学史、戦後高等教育史と位置づけることができる。

「学問の自由」や「大学の自治」という戦後大学の理念が、第一次米国教育使節団報告書や憲法、教育基本法を基盤として確立しつつも、ソ連や北朝鮮、中華人民共和国といった共産主義国家の出現を契機に、GHQの圧力によって各地の大学で「自主的」に教員のレッドページが相次ぐなど、大学が自ら「大学の自治」を放棄し、戦後大学の理念が変質してしまった経緯が、第1章では述べられている。また、第2章では、市場競争原理や新自由主義を取り入れた教育改革により、高等教育制度の「自由化」が進んだが、それは高等教育制度の新たな国家管理を行うものであることが指摘されている。

第3～6章は、今日の大学の実態についての分析である。第3章は国立大学法人化、第4章は私立大学、第5章は大学院、第6章は大学のグローバル化について、それぞれの現状と問題点が述べられている。

このうち第3章では、「国立大学の法人化は『文部科学省の内部組織である』ことをやめ、『自由な運営ができる』ようにするのが、一つの大きな目的であったはず」（58頁）なのに、多数意思を反映しない学長選考会議、教授会の形骸化、国による国立大学法人の中期目標・計画への関与、競争的予算配分、運営交付金削減などによって、むしろ「国立大学の学問の自由・大学の自治が危うくなった」（45頁）ことが明らかにされている。

また、第5章は、大学院の量的拡大政策によって各大学院が定員を増やした結果、「博士の安売り」とも言える状況を招き、大量のポストドクターや「フリーター博士」が生まれるなどの事態を引き起こしていることや、法科大学院や教職大学院といった専門職大学院の問題について触れている。法科大学院については「新司法試験受験予備校としての色彩を正面から大学に持ち込んだ」（164頁）ことの問題を主に取り上げている。

第7～8章は、今後の大学・高等教育のあるべき姿の提言である。第7章では、今後の大学・高等教育には、「国際競争力」よりも、食糧、エネルギー、環境、人権、平和などで質的に高い研究と国際的学際型人材の育成を行う「国際貢献力」をこそ求めるべきではないか、あるいは「自立した市民」として生きる上で必要な知識・能力としての「市民的総合知」を学習・研究することを基本理念に据えるべきではないか、高等教育機関の評価には、制度的評価（第三者評価）とともに、教育・研究者や学習者による自主的な評価、すなわち「参画協調型評価」が重要ではないか、といったことが提言されている。

第8章では、「学問の自由」には社会的責任が伴うのであって、何を研究しても許されるのではなく、福島原発事故の反省の上に立って考えれば、これからの科学研究は、根底に「いのち」を据えることが何よりも重要であることが指摘されている。そして、「いのち」は、理科系の科学者・技術者だけでなく、文科系の研究者・実務家も守るべきことであり、そのためには、学問の「むら社会」を解体し、学問の「たてわり」を克服して、学問研究の総合化を図る必要があることが強調されている。これは、日本学術会議の言葉を借りれば「知の統合」であり、第7章で言うところの「市民的総合知」に当たるものであろう。

このように、第1～2章が大学・高等教育のこれまでの経緯、第3～6章が現状、第7～8章が今後のあり方という形で本書は構成されているが、

このうち第8章は、本書編集中の2011年3月に東日本大震災と福島第一原発事故が発生したことを受け、急遽追加されたものである。

大学改革や高等教育改革を論じた書籍は数多くあるが、どちらかと言えば、自由化や規制緩和を推進する立場から論じられたものが多い印象を受ける。本書は、自由化や規制緩和による大学改革や高等教育改革には批判的な立場から、今後の大学や高等教育を論じているが、その際に、憲法の「学問の自由」や「大学の自治」を軸に議論を展開しているという点に大きな特徴がある。

また、福島第一原発事故では、「原子カムラ」の存在と問題とが浮かび上がったが、その問題を考えるに際しても本書は示唆的である。本書では主に第3章で「産学官連携」の問題が取り上げられているが、これは一般には「産学連携」という言葉が用いられるものである。「産学連携」ではなく「産学官連携」という言葉を用いているのは、「大学の産業界に対する『貢献』は、官の政策と濃厚に連結している」（87頁）ためであるが、そのように理解すると、「官の政策」によって進められた原子力発電が、「産」と「学」とを巻き込んで発展し、閉鎖的な「原子カムラ」の誕生につながっていった実態が理解しやすくなる。

「学問の自由」や「大学の自治」を軸に、大学や高等教育の過去・現在・未来を考察した本書から言えることは、「大学は憲法が掲げた理想の実現のために教育を行うべき」であって、それは「主権者を育てるために行われるべきものである」（7頁）ということに尽きるのではないか。そのためにも、大学教育や高等教育は、その原点に立ち返ることが必要であって、その上に立って、大学改革や高等教育改革は模索されるべきである。その意味でも、自由化や規制緩和、市場競争原理や新自由主義に基礎を置く改革には、問題が多いと言わざるを得ない。

そのことを改めて確認する上で本書は非常に有益であると思われるし、大学や高等教育の戦後の

経緯や現状の問題点などが端的にまとめられているので、基本的な事項の学習にも役立つ一冊であると思う。

最近の受入図書（2）

（2011年10月～2012年2月受入）

【歴史・社会・教育・軍事関係】

『在日朝鮮人の民族教育』1996

『地方教育費調査報告書 平成22年度版』

文部科学省著 日経印刷 2010

『学校基本調査報告書 平成23年度』

文部科学省生涯学習政策局調査企画課Ⅱ編 2011

『諸外国の教育動向2010年度版』

文部科学省著 明石書店 2010

『子ども白書2011』日本子どもを守る会著
草土文化 2011.9

『図表で見る教育』経済協力開発機構著
明石書店 2011.10

『アマテラスと天皇』千葉慶著
歴史文化ライブラリー 2011.12

『危険な世界史』中野京子著 角川文庫 2008.9

『現代落語論』立川談志著 三一新書 1965.12

『発達障害のいま』杉山登志郎著
講談社現代新書 2011.7

『ミリタリー・バランス』英国国際戦略研究所著
メイナード出版 1995-1996

『憲法から大学の現在を問う』永井憲一著
勁草書房 2011.12

『愛国心』市川昭午著 学術出版会 2011.9

『祖母よ、安心と幸せの国となれ』
リヒテルズ直子著 ほんの木 2011.9

『100,000年後の安全』マイケル・マドセン著
かんき出版 2011.10

『3・11後の心を立て直す』香山リカ著
ベスト新書 2011.7

『OECD教育政策分析』御園生純著
明石書店 2011.11

- 『Steve・Jobs I』
ウオルター・アイザックソン著 講談社
2011.11
- 『Steve・Jobs II』
ウオルター・アイザックソン著 講談社
2011.11
- 『TPP亡国論』中野剛志著
集英社新書 2011.3
- 『いじめ・損なわれた関係を築きなおす』
山下英三郎著 学苑社 2010.9
- 『いま、先生は』朝日新聞教育チーム著
岩波書店 2011.10
- 『大阪維新の会「教育基本条例案」何が問題か』
市川昭午著 教育開発研究所 2012.1
- 『沖縄』由井晶子著 七つ森書館 2011.6
- 『革新幻想の戦後史』竹内洋著
中央公論新社 2011.10
- 『勝海舟と西郷隆盛』松浦玲著
岩波新書 2011.12
- 『教育行政の政治学』村上祐介著
木鐸社 2011.2
- 『教育における「政治的中立」の誕生』
藤田祐介・貝塚茂樹著 ミネルヴァ書房
2011.12
- 『教育を受ける権利と朝鮮学校』朴三石著
日本評論社 2011.6
- 『危険な学校』畑村洋太郎著 潮出版社 2011.3
- 『記録沖縄「集団自決」裁判』
大江健三郎他著 岩波書店 2012.2
- 『憲法と公教育』杉原泰雄著
勁草書房 2011.11
- 『原子力市民年鑑』原子力資料情報室編 2010
- 『原発訴訟』海渡雄一著 岩波新書 2011.11
- 『原発のほんとうの話』
LLC都市教育研究所 2011.8
- 『公教育改革への提言』嶺井正也著
八月書館 2011.5
- 『公正なグローバル・コミュニティを』
大沢真理著 岩波書店 2011.12
- 『効率と公平を問う』小塩隆士著
日本評論社 2012.1
- 『子ども虐待という第四の発達障害』
杉山登志郎著 学研 2001.3
- 『子どもたちとの七万三千日』大森直樹著
東京学芸大学出版会 2010.3
- 『子どものうつと発達障害』星野仁彦著
青春出版社 2011.10
- 『子供がケータイを持ってはいけないか？』
小寺信良著 ポット出版 2011.9
- 『障害児の発達と学校の役割』高橋登著
ミネルヴァ書房 2011.9
- 『真珠湾攻撃総隊長の回想』中田整一著
講談社文庫 2010.11
- 『新編あの戦争を伝えたい』
東京新聞社会部著 岩波現代文庫 2011.7
- 『ジェンダー社会科学の可能性第1巻』
辻村みよ子著 岩波書店 2011.6
- 『児童虐待』南部さおり著 教育出版 2011.9
- 『清貧と復興』出町讓著 文藝春秋 2011.8
- 『世界を動かした142の言葉』桑原晃弥著
PHPビジネス新書 2011.12
- 『世代論のワナ』山本直人著 新潮新書 2012.1
- 『全国市町村要覧 平成23年版』
市町村要覧編集委員会著 第一法規 2011
- 『それは、密告からはじまった』土肥信雄著
七つ森書館 2011.2
- 『体制維新——大阪都』橋本徹・堺屋太一著
文春新書 2011.10
- 『旅人は死なない』リチャール・コラス著
集英社 2011.11
- 『大震災でわかった学校の大問題』
大森直樹著 小学館新書 2011.8
- 『大東京ぐるぐる自転車』伊藤礼著
東海教育研究所 2011.4

- 『チェルノブイリハート』
マリアン・デレオ著 合同出版 2011.9
- 『特別支援教育とインクルーシブ教育』
姉崎弘著 ナカニシヤ出版 2011.7
- 『特別支援教育のための精神・神経医学』
杉山登志郎著 学研 2003.6
- 『日本海軍はなぜ過ったか』澤地久枝著
岩波書店 2011.12
- 『犯罪白書 平成23年版』法務省法務総合研究所著
法務省法務総合研究所 2011
- 『文部科学法令要覧 平成24年版』
文部科学法令研究会Ⅱ著 ぎょうせい 2012
- 『山縣有明の挫折』松元崇著
日本経済新聞出版社 2011.11
- 『2010年人事院報告・勧告の解説』公務員労働組
合連絡会著 公務員労働組合連絡会 2010
- 『2011年人事院報告・勧告の解説』公務員労働組
合連絡会著 公務員労働組合連絡会 2011.10
- 『「生徒指導提要」一問一答』柿沼昌芳著
同時代社 2012.1
- 『アメリカの人権のまちづくり～地域住民のチャ
レンジ』反差別国際運動日本委著
解放出版社 2000.4
- 『いのちと教育 阪神・淡路大震災10年検証の記
録』兵庫県文化研究所・兵庫県教職員組合著
大和出版印刷株式会社
- 『岡山超先生記念教育論集』岡山超著
茨城県国民教育研究所 1993
- 『官公労働者の刑事弾圧』総評弁護団編
労働教育センター
- 『カンボジア「ゴミに生きる子どもたち」』
佐々木健二著 星雲社 2011.11
- 『原発を終わらせる』石橋克彦著
岩波新書 2011.7
- 『最低賃金制闘争の現状と課題』
国民春闘最賃対策委員著 総評文庫 1981.1
- 『本当の30人学級は実現したのか?』
山崎洋介著 自治体研究社 2010.3
- 【小説・エッセイほか】
- 『エンブリオ上』帚木逢生著
集英社文庫 2005.10
- 『エンブリオ下』帚木逢生著
集英社文庫 2005.10
- 『草原の風 上』宮城谷昌光著
中央公論新社 2011.10
- 『草原の風 中』宮城谷昌光著
中央公論新社 2011.11
- 『草原の風 下』宮城谷昌光著
中央公論新社 2011.11
- 『禊の塔』久木綾子著 新宿書房 2010.7
- 『明智左馬助の恋 上』加藤廣著
文春文庫 2007.4
- 『明智左馬助の恋 下』加藤廣著
文春文庫 2007.4
- 『インターセックス』帚木逢生著
集英社文庫 2011.8
- 『うしろ姿のしぐれてゆくか』棧比呂子著
海鳥社 2003.6
- 『おまえさん [上]』宮部みゆき著
講談社文庫 2006.8
- 『おまえさん [下]』宮部みゆき著
講談社文庫 2006.8
- 『神々の乱心 上』松本清張著
文春文庫 2000.1
- 『神々の乱心 下』松本清張著
文春文庫 2000.1
- 『境遇』湊かなえ著 双葉社 2011.10
- 『ゴースト男の怪』島田荘司著
新潮社 2011.10
- 『ジェネラル・ルージュの凱旋』海堂尊著
宝島社 2007.4
- 『ジェネラル・ルージュの伝説』海堂尊著
宝島社 2009.3
- 『共喰い』田中慎弥著 集英社 2012.1
- 『とんび』重松清著 角川文庫 2008.10

- 『ナイチンゲールの沈黙』海堂尊著
宝島社 2006.10
- 『ナニワ・モンスター』海堂尊著
新潮社 2011.4
- 『榆家の人びと』北杜夫著 新潮文庫 2011.7
- 『榆家の人びと第二部』北杜夫著
新潮文庫 2011.7
- 『榆家の人びと第三部』北杜夫著
新潮文庫 2011.7
- 『はげましてはげまされて』竹浪正造著
廣済堂出版 2011.10
- 『「花のいのち」殺人事件』宮田俊行著
海鳥社 2011.10
- 『坂の上の坂』藤原和博著 ポプラ社 2011.11
- 『蝸ノ記』葉室麟著 祥伝社 2011.11
- 『秀吉の枷 上』加藤廣著 文春文庫 2009.6
- 『秀吉の枷 中』加藤廣著 文春文庫 2009.6
- 『秀吉の枷 下』加藤廣著 文春文庫 2009.6
- 『ひとりで生きる』堀文子著 求龍堂 2010.2
- 『日々の非常口』アーサー・ビナード著
新潮文庫 2010.8
- 『武士道セブンティーン』菅田哲也著
文春文庫 2009.7
- 『プレニテュード』ジュリエット・B・ショア著
岩波書店 2011.11
- 『閉鎖病棟』帚木蓬生著 新潮文庫 1994.4
- 『極北ラプソディ』海堂尊著
朝日新聞出版 2011.12
- 『マスカレード・ホテル』東野圭吾著
集英社 2011.9
- 『まともな家の子供はいない』津村記久子著
筑摩書房 2011.8
- 『円朝 上』小島政二郎著 河出文庫 2008.7
- 『三たびの海峡』帚木蓬生著 新潮文庫 1995.8
- 『螺鈿迷宮 上』海堂尊著 角川文庫 2008.11
- 『螺鈿迷宮 下』海堂尊著 角川文庫 2008.11
- 『歪笑小説』東野圭吾著 集英社文庫 2012.2
- 『森に眠る魚』角田光代著 双葉文庫 2011.11
- 『三面記事小説』角田光代著 文春文庫 2010.9
- 『おおきなかぶ、むずかしいアボガド』
村上春樹著 マガジンハウス 2011.7
- 『あなたは誰？私はここにいる』姜尚中著
集英社新書 2011.9
- 『生ききる』瀬戸内寂聴・梅原猛著
角川oneテーマ21 2011.7
- 『大人の女の流儀』辛淑玉著
株式会社PHP研究所 2012.1
- 『下北核半島』鎌田慧・斉藤光政著
岩波書店 2011.8
- 『人生で最も大切な101のこと』野村克也著
海竜社 2011.7
- 『ふまれてもけられても』佐野明著
昌平堂 2011.11
- 『小澤征爾さんと音楽について話をする』
小澤征爾・村上春樹著 新潮社 2011.11
- 『平等と効率の福祉革命』大沢真理著
岩波書店 2011.11
- 『不惑のフェミニズム』上野千鶴子著
岩波現代文庫 2011.5
- 『ジェンダー六法』山下泰子著 信山社 2011.4
- 編集後記
- 昨年4月1日から、図書館勤務になり早いもの
でもう1年が過ぎようとしています。
- 図書館御利用に際して、皆様方には多々行き届
かないところがあったのではと思っており、レ
ファレンス等に十分対応出来るよう頑張ります。
- 今後とも、図書館のご利用をお願いいたします。
- ほんばこ第37号ができました。巻頭文を総研の
前田さん、図書紹介を専大の中川さんに執筆いた
だき、完成しました。
- 大変有難うございました。（井上）

